

在庫管理

在庫管理のマニュアルでは、「製品管理」に含まれる在庫管理について説明します。

Adempiere では、ツールバーの 表示 > 製品情報 で製品の在庫数を確認できます。

伝票の完了で在庫数が増減するウィンドウは、メインメニューの

購買管理 > 受入 (製品の仕入)

販売管理 > 出荷 > 出荷(得意先へ) (製品の販売)

製品管理 > 物理在庫(棚卸) (棚卸減耗)

製品管理 > 内部利用在庫 (内部利用による消費)

製品管理 > 生産 (材料になる製品の減少)

製品管理 > 在庫移動 (倉庫間での在庫移動)

があります。

また、補充レポートでは、補充が必要な製品の発注伝票などを自動で生成できます。

＊在庫移動ウィンドウは、adempiere バージョン 353a 以降の場合は、メインメニューの manufacturing Management > Distribution Management > 在庫移動 にあります。

1. 物理在庫(棚卸)

物理在庫ウィンドウを使うと、Adempiere 上の在庫を作成、修正、削除することができます。

このウィンドウは、製品の減損(減耗)を Adempiere のデータに反映させるためのウィンドウです。

物理在庫ウィンドウを開くには、メインメニューから

製品管理 > 物理在庫(棚卸)

をクリックしてください。

物理在庫(棚卸)ウィンドウでは、在庫カウントリストを作成することができます。在庫カウントリストを修正すると、在庫数が新しい数量で更新されます。

○在庫数量確認タブ

在庫数量確認タブで、在庫の手動数量確認と調整のパラメーターを設定できます。

新規作成ボタンをレコードを追加してください。

「伝票番号」は、この在庫数量確認の番号です。新規にレコードを作成すると自動で値が設定されます。

「説明」は、この在庫数量確認の説明を入力してください。

「倉庫」には、棚卸を実施する倉庫を選択してください。

「恒常在庫」は、現時点では使用されません。

「移動日付」は、在庫移動が発生した日付を入力してください。

「伝票タイプ」では、この物理在庫の伝票タイプを指定します。初期状態では、「物理的な材料在庫」のみが選択できます。

「プロジェクト」と「キャンペーン」の選択は任意です。

「認承額」は、現時点では使用されません。

○「在庫カウントリストを作成」ボタン

データを保存した後、「在庫カウントリストを作成」ボタンを押すと、在庫数量確認明細タブのレコードが作成されます。

「在庫カウントリストを作成」ボタンを押すとダイアログが表示されます。このダイアログでは、在庫数量確認明細を作成する対象を絞り込むための条件を指定できます。

「位置情報」では、入力フィールドの右にあるボタンを押して、位置情報を選択できます。空白のままにするとすべての位置情報を対象にします。

「位置情報キー」では、位置情報のキーを入力して在庫数量確認明細の対象を制限できます。

キーを部分一致で検索したい場合は、「%」記号を使ってください。

例えば、「test1」「test20」「test_abcde」を対象にしたい場合は、「test%」と入力してください。

「製品キー」では、製品のキーを入力して在庫数量確認明細の対象を制限できます。キーを部分一致で検索したい場合は、「%」記号を使ってください。

「製品カテゴリー」で、処理対象の製品カテゴリーを選択してください。

「在庫数量」では、処理対象になる在庫数量の状態を選択してください。

「Set Inventory Count」は、作成される「在庫数量確認明細」の「数量カウント」を手持ち数量にするか0にするかを選択してください。

「古い/既存のレコードを削除」は、2回目以降の明細の作成で、以前に実行して作成されたリストを削除したい場合に選択してください。

このチェックボックスがチェックされていると、既存の在庫数量確認明細レコードは削除されます。

チェックされていないと、既存のレコードに新しいレコードが追加されます。

「在庫カウントリストを作成」処理は、異なった条件で別の在庫数量確認明細を作成するために、複数回実行することが出来ます。その場合は、「古い/既存のレコードを削除」はチェックしないでください。

右下の OK ボタンを押すと処理が実行されます。処理が正しく実行されると物理在庫ウィンドウの下部にあるステータスバーに作成されたレコード数が表示されます。

○在庫数量確認明細タブ

処理を実行した後、在庫数量確認明細タブに移動すると作成されたリストが表示されます。

ツールバーの「表形式」アイコンをクリックすると表形式表示と詳細表示を切り替えられます。

ツールバーの「レポート」アイコンをクリックするとレポートのウィンドウが表示されます。

レポートウィンドウの印刷アイコンを押すとプリンターで印刷することが出来ます。これを実際の在庫数確認(棚卸作業)に使うことが出来ます。

実地の在庫確認をして差異があったら、在庫数量確認明細タブの「数量カウント」に実際の数量を入力してください。

「数量記録簿」は、Adempiere が記録している個数を表します。「数量カウント」の値を変更すると、その差が更新(仕訳)されます。

製品が実物属性を持っている場合は、在庫数量確認明細に、同じ製品のレコードが複数作成されます。実物属性を持った製品は、属性ごとにひとつのレコードが作成されます。

製品属性については、製品管理のマニュアルを参照してください。

「説明」は、必要に応じて在庫数量確認明細レコードの説明を入力することができます。

「在庫タイプ」では、在庫差異または料金勘定科目を選択してください。

在庫差異を選択した場合は、在庫の損益が、会計基準で設定した倉庫差異の勘定科目へ仕訳されます。

料金勘定科目を選択した場合は、料金を選択する項目が表示されます。

○属性タブ

属性タブは、表示専用のタブで、属性を持った製品が受入伝票の処理で在庫された場合にデータが表示されます。

このタブは、メニューバーの、ツール > 設定で「アドバンスタブを表示」をチェックしたときに表示されます。

在庫数量確認明細のすべてのレコードで、実際の在庫数の入力したら、在庫数量確認タブに戻ってください。

在庫数量確認タブで、「完了する」ボタンを押すと、在庫数量確認明細で数量を修正した製品の数量が更新されます。

ツールバーの 表示 > 製品情報 で製品の在庫数を確認できます。

製品情報ウィンドウの右上にある、「倉庫」のプルダウンは、在庫数量確認タブで選択した倉庫を選択してください。左下の更新ボタンを押すと最新の在庫数が表示されます。

在庫数量確認タブの「完了する」処理が正しく完了すると、ウィンドウの下部に更新されたレコードの個数が表示されます。

また、「未仕訳」ボタンが表示されます。「未仕訳」ボタンを押すと、確認ダイアログが表示されます。OK ボタンを押すと仕訳が実行されます。

仕訳を処理するには、アプリケーションサーバーが起動している必要があります。

○物理在庫の仕訳処理

物理在庫の仕訳では、在庫数量確認タブで選択された組織が、会計取引で使われます。ただし、在庫数量確認明細タブにある「在庫タイプ」で「料金勘定科目」が選択されていた場合は、在庫数量確認明細タブの組織が、会計仕訳に使われます。この場合は、組織間支払いの仕訳が作成されます。

物理在庫に関する仕訳処理の概要は以下のとおりです。

製品資産に使われる勘定科目は、製品ウィンドウで設定できます。

料金に使われる勘定科目は、料金ウィンドウで設定できます。

倉庫差異に使われる勘定科目は、倉庫と位置情報ウィンドウで設定できます。

- ・物理在庫(在庫の減少と費用への仕訳)

借方: 料金

貸方: 製品資産

- ・物理在庫(在庫の増加と費用への仕訳)

借方: 製品資産

貸方:料金

・物理在庫(在庫の減少と倉庫差異への仕訳)

借方:倉庫差異

貸方:製品資産

・物理在庫(在庫の増加と倉庫差異への仕訳)

借方:製品資産

貸方:倉庫差異

2. 内部利用在庫

内部利用在庫ウィンドウは、顧客(得意先)への販売ではなく、社内で利用される製品を在庫から減少させます。

内部利用在庫ウィンドウを開くには、メインメニューから、
製品管理 > 内部利用在庫
をクリックしてください。

「伝票番号」は、この伝票の番号です。空欄のまま保存すると自動で値が設定されます。

「説明」は、この内部利用在庫の説明を入力してください。

「倉庫」では、どの倉庫から在庫を取り出すかを選択してください。

「移動日付」は、在庫移動の日付を設定してください。

「伝票タイプ」では、この内部利用在庫の伝票タイプを選択してください。初期設定では、「物理的な材料在庫」のみが選択できます。

「プロジェクト」と「キャンペーン」の選択は任意です。

承認額は、現時点では使われていません。

必要な項目を入力したら、保存ボタンを押してデータを保存してください。

○内部利用明細タブ

内部利用明細タブでは、在庫移動をする製品を選択します。

「明細番号」は、この明細の番号です。新規にレコードを作成すると自動で値が設定されます。

「位置情報」は、倉庫内の位置をあらわします。

「製品」では、内部利用する製品を選択してください。

「実物属性セット」では、特定の製品在庫を指定するための属性を選択できます。

「説明」の入力は、任意です。

「内部使用数量」では、内部利用する数量を入力してください。

「料金」では、仕訳の時に使われる料金の種類を選択してください。

値を入力したら、レコードを保存してください。

内部利用在庫タブの「完了する」ボタンを押すと、この内部利用在庫を処理して完了できます。

伝票状態は、「完了」になって、「未仕訳」ボタンが表示されます。(表示されない場合は、メニューバーのツール > 設定 で「会計タブを表示」がチェックされているか確認してください。)

○内部利用在庫の仕訳処理

内部利用在庫に関する仕訳処理は以下のとおりです。製品資産に使われる勘定科目は、製品ウィンドウで設定されています。料金に使われる勘定科目は、料金ウィンドウで設定されています。

・物理在庫(在庫の減少と費用への仕訳)

借方:料金

貸方:製品資産

3. 生産

生産の機能は、部品構成表の構成部品になっている製品の在庫数を減らして、部品構成表の製品の在庫を増やす処理です。

生産ウィンドウを開くには、メインメニューから
製品管理 > 生産
をクリックしてください。

○生産ウィンドウ

生産ウィンドウは、部品表を構成している製品を使って、部品表の製品を生産します。

生産ヘッダタブでは、この生産の「名前」、「移動日付」を入力します。

「説明」の入力は任意です。

「移動日付」は、現在の日付が初期値になっています。

データを入力したら、保存して生産計画タブに移動してください。

生産計画タブでは、作成する製品を設定します。

「製品」では、生産する製品を選択してください。(部品表の必要があります)

「生産数量」は、生産する数量を入力してください。

「位置情報」では、生産される製品が、作成後に保管される場所を設定してください。

生産計画タブのデータを入力したら、生産ヘッダタブにある、「生産を作成/仕訳」ボタンで部品表の製品を生産できます。

生産明細タブにレコードが無い状態で「生産を作成/仕訳」を押すと明細レコードが作成されます。

この時点では、生産は行われません。生産明細タブにレコードができた状態で「生産を作成/仕訳」ボタンを押すと部品表の製品が生産されます。

「生産を作成/仕訳」ボタンを押すと表示されるダイアログにある、「材料が足りている場合のみ」をチェックすると部品表の構成製品の在庫が足りている場合にのみ生産が実行されます。

生産を実行する前に生産明細タブのレコードを修正することができます。これにより、一時的な生産内容の変更に対応できます。

処理が正しく完了すると、ウィンドウの下部にあるステータスバーに更新されたレコードの数が表示

されて、「未仕訳」ボタンが表示されます。

仕訳処理をするには、アプリケーションサーバーが起動している必要があります。

○生産の仕訳処理

生産に関する仕訳処理の概要は以下のとおりです。

製品資産に使われる勘定科目は、製品ウィンドウで設定できます。

・生産

借方:製品資産(作成される製品)

貸方:製品資産(生産に使用される製品)

4. 在庫移動

在庫移動ウィンドウでは、在庫の倉庫間の移動を作成することができます。

在庫移動は、品質保証のために作成した倉庫データから、保管のために作成した倉庫データへの移動なども含みます。

在庫移動ウィンドウを開くには、メインメニューから、

製品管理 > 在庫移動 (adempiere バージョン 342s の場合)

manufacturing Management > Distribution Management > 在庫移動 (adempiere バージョン 353a 以降の場合)

をクリックしてください。

○在庫移動ウィンドウ

このウィンドウでは、在庫を他の場所(位置情報)に移動させることができます。

明細を入力した後、「完了する」ボタンを押すと、在庫数量が変更されます。

○移動タブ

移動タブは、在庫している製品の移動を定義します。

新規追加アイコンをクリックするとレコードが追加されます。

「名前」は、この在庫移動の名前を入力してください。

「説明」は、この在庫移動の説明を入力してください。

「移動日付」は、この在庫移動の日付を入力してください。

「伝票タイプ」は、現時点で選択できるのは、「在庫移動」のみです。

「承認済み」チェックボックス、「承認額」、「移動中」チェックボックス、「受取日付」は、現時点では使われません。

「プロジェクト」の入力は、任意です。

「キャンペーン」の入力は、任意です。

これらの入力項目は、会計基準の設定で選択されている場合にのみ表示されます。

必要な項目を入力したら保存ボタンを押して、データを保存してください。

○移動明細タブ

移動明細タブでは、移動対象の製品を入力します。

「製品」は、在庫移動の対象になる製品を選択してください。

「実物属性セット」は、選択した製品に実物属性セットがある場合に選択してください。実物属性セットの入力は任意です。

「位置情報」は、移動元になる位置情報を選択してください。

「移動先位置情報」は、移動先の位置情報を選択してください。

「移動数量」は、移動させる数量を入力してください。

「対象数量」、「廃棄数量」、「確認済み数量」は、この在庫移動に対する出荷/受入確認ウィンドウに入力された値を基にして更新されます。

確認伝票は、出荷/受入確認を行う設定になっていた場合に作成されます。

出荷/受入確認に関する説明は、購買管理のマニュアルを参照してください。

移動タブに戻って「完了する」ボタンで処理を実行すると、在庫数量が更新されます。

伝票が完了すると、「未仕訳」ボタンが表示されます。「未仕訳」ボタンを押すと、確認ダイアログが表示されます。OK ボタンを押すと仕訳が実行されます。

仕訳を処理するには、アプリケーションサーバーが起動している必要があります。

○確認処理付きの在庫移動

在庫移動をするときに確認処理を追加することができます。この処理は、出荷/受入確認と同様の処理です。

移動タブで、伝票タイプを設定しますが、この伝票タイプによって、確認が必要かどうかが決まります。

メインメニューの

成績分析 > 会計ルール > 伝票タイプ

にある伝票タイプウィンドウで、確認付きの在庫移動を設定できます。

伝票タイプウィンドウは、在庫移動ウィンドウの移動タブにある、伝票タイプの入力項目を右クリックして、コンテキストメニューから、「関連情報表示」をクリックしても表示できます。

「Material Movement」のレコードで、「移動中」チェックボックスをチェックすると、確認が必要な設定になります。

移動明細タブでは、移動させる製品と数量、移動元の位置情報、移動先の位置情報を選択します。

入力が終わったら、移動タブに戻って、「完了する」ボタンを押してください。伝票アクションウィンドウが表示されます。

ここまでは、確認処理が無い場合の処理と、違いはありません。

伝票アクションウィンドウで、「完了する」を選択して OK ボタンを押すと、伝票状態は完了ではなく「進行中」になります。

ウィンドウ下部のステータスバーに作成された移動確認伝票の伝票番号が表示されます。

メインメニューの

製品管理 > 在庫移動確認 (adempiere バージョン 342s の場合)

manufacturing Management > Distribution Management > 在庫移動確認 (adempiere バージョン 353a 以降の場合)

から在庫移動確認ウィンドウを開いて、確認を完了させると、伝票状態が「完成」になります。

在庫移動確認ウィンドウの明細タブで「確認済み数量」を変更することで、部分的に確認処理をすることができます。

明細タブでは、「確認済み数量」は「対象数量」と同じ数量になっています。「確認済み数量」と「廃棄数量」は、実際の確認状況に応じて値を変更することができます。

廃棄数量を入力すると、物理在庫のレコードが対象(移動先)倉庫に対して作成されます。

確認タブに戻って、「完了する」ボタンを押すと確認を完了できます。処理が正しく行われると伝票状態が更新されます。

在庫移動確認の確認タブの「説明」は、この確認を完了させたユーザーと完了させた日付で更新されます。

伝票状態が「完了」になっています。

確認伝票を完了させたら、在庫移動ウィンドウに戻って伝票を完了させてください。

確認が完了しているため、伝票状態が「完了」になります。

また、「未仕訳」ボタンが表示され仕訳処理をすることができるようになります。

○在庫移動の仕訳処理

在庫移動に関する仕訳処理の概要は以下のとおりです。製品資産に使われる勘定科目は、製品ウィンドウで設定できます。

会計基準の要素に倉庫を含めていて、製品を倉庫間で移動させる場合は、借方と貸方の勘定科目は両方とも製品資産になります。

- ・在庫移動

- 借方:製品資産

- 貸方:製品資産

4. 補充

補充の機能では、在庫数量が減って、発注が必要な製品を示す機能を提供します。

補充処理の対象として評価される製品は、「在庫済み」である必要があります。(製品ウィンドウで設定できます)

補充対象の製品は、ひとつ以上の「現在の仕入先」を持っていて(製品ウィンドウの購買タブで設定できます)、製品ウィンドウの補充タブにある「補充タイプ」で「最低レベルより下で再注文」または「最大レベルを維持」が選択されている必要があります。

補充元になるのは、仕入先(発注を作成する場合)または倉庫(在庫移動を作成する場合)です。

補充レポートの機能では、補充が必要な製品をリスト表示します。また、レポートで表示された製品に対して、要求伝票、発注伝票、在庫移動伝票を作成することができます。

補充レポートを表示するには、メインメニューから

製品管理 > 補充レポート

をクリックしてください。補充レポートのダイアログウィンドウが表示されます。

「倉庫」を選択すると、製品ウィンドウの補充タブで選択されている倉庫と一致している製品のみを補充レポートの表示対象にします。

「取引先」を選択すると、選択した取引先が「現在の仕入先」になっている製品のみを対象にしま

す。

「作成」は、プルダウンで要求伝票、発注伝票、在庫移動伝票を選択することにより、レポートのデータを使って各伝票を作成します。

「伝票タイプ」は、「作成」で伝票を作成する場合に、その伝票の伝票タイプを指定します。

ウィンドウ右下の開始ボタンを押すと、レポートの処理が実行されます。

レポートには、取引先(現在の仕入先)、最大レベル(数量)、最小レベル(数量)、最低発注数量、手持ち数量、発注済数量、製品、注文数量、補充タイプ、予約済み数量、元の倉庫、倉庫などが表示されます。

注文数量は、補充タイプ、手持ち数量、予約済み数量を基にして計算されます。

受注パック数量と最小発注数量も計算に使用されます。

例えば、「Patio Sun Screen」は、製品ウィンドウの補充タブで「最高レベル」が 20、購買タブで、「受注パック数量」が 1、「最小発注数量」も 1、に設定されています。

「Patio Sun Screen」の手持ち数量が 14、予約済数量が 2 だった場合に、補充レポートの注文数量は 8 になります。

もし、「受注パック数量」と「最小発注数量」が 3 だった場合、注文数量は、9 になります。

補充レポートを作成するダイアログの「作成」で、伝票を選択しているとレポートの結果に基づいて、選択された伝票が作成されます。

在庫移動伝票は、製品/倉庫の補充ルールが定義されているときにだけ作成できます。

5. 倉庫と位置情報

○倉庫と位置情報

倉庫は、製品や材料を保管しておくための、実際に存在する場所です。倉庫は、複数設定することができます。1つの倉庫には複数の位置情報を設定することができます。

位置情報は、3つの値(X、Y、Z)の組み合わせです。

倉庫は、1つの組織に所属します。製品の在庫データは、任意の倉庫の、任意の位置に移動させることができます。

倉庫と位置情報ウィンドウでは、一度データを保存すると、選択した組織は変更できません。

変更したい場合は、

製品管理 > 製品管理ルール > 倉庫組織

から修正してください。

倉庫の説明は、製品管理のマニュアルを参照してください。

6. 在庫管理のレポート

Adempiere には、製品の在庫と在庫の移動を分析するためのレポートがあります。

製品管理 > 取引の詳細

このレポートは、出荷、受入、在庫移動、生産など製品の移動に関するデータを出力します。

「移動タイプ」を選択すると、選択した移動タイプのみを表示対象にします。

「移動日付」では、レポートに表示する対象を、取引の日付で絞り込みます。

「製品カテゴリー」を選択すると、選択した製品カテゴリーのみを表示対象にします。

「製品」を選択すると、選択した製品のみを表示対象にします。

「位置情報」を選択すると、選択した位置情報のみを表示対象にします。

「ロット」を選択すると、選択したロットを属性にもつ製品のみを表示対象にします。

「ロット番号」を選択すると、選択したロット番号を属性にもつ製品のみを表示対象にします。

「シリアル番号」を選択すると、選択したシリアル番号を属性にもつ製品のみを表示対象にします。

属性に関する説明は、製品機能のマニュアルを参照してください。

製品管理 > 製品取引額

このレポートは、製品の、最後の発注価格、定価、数量、発注価格など、製品の価格情報を表示します。

「移動日付」では、レポートに表示する対象を取引の日付で絞り込みます。

「製品カテゴリー」を選択すると、選択した製品カテゴリーのみを表示対象にします。

「取引先」を選択すると、選択した取引先のみを表示対象にします。

「検索キー」を入力すると、入力した検索キーと一致する製品のみを表示対象にします。

製品管理 > 製品取引概要

このレポートは、出荷、受入、在庫移動、生産などの製品取引を、製品、移動日付、移動タイプでまとめてリスト表示します。

「移動日付」では、レポートに表示する対象を取引の日付で絞り込みます。

「倉庫」を選択すると、選択した倉庫のみを表示対象にします。

「移動タイプ」を選択すると、選択した移動タイプのみを表示対象にします。

「製品」を選択すると、選択した製品のみを表示対象にします。

製品管理 > 補充レポート

補充レポートは、このマニュアルの補充の節で説明した機能です。各製品で設定された補充ルールに基づいて発注が必要な製品を表示します。

レポート表示前のダイアログにある、「作成」で伝票を選択すると、自動で要求伝票や発注伝票を作成することができます。

「倉庫」を選択すると、選択した倉庫のみを表示対象にします。

「取引先」を選択すると、選択した取引先のみを表示対象にします。

このレポートは、取引先(現在の仕入先)、(在庫の)最大レベル、(在庫の)最低レベル、最低発注数量、手持ち数量、製品名、発注数量などを表示します。

製品の補充ルールが「手動」になっていた場合は、その製品はこのレポートに表示されません。

製品管理 > 在庫保管の詳細

このレポートは、実物属性セット情報を含む、製品の保管状態を表示します。

「倉庫」を選択すると、選択した倉庫のみを表示対象にします。

「位置情報」を選択すると、選択した位置情報のみを表示対象にします。

「製品カテゴリー」を選択すると、選択した製品カテゴリーのみを表示対象にします。

「製品」を選択すると、選択した製品のみを表示対象にします。

「ロット」を選択すると、選択したロットを属性にもつ製品のみを表示対象にします。
「ロット番号」を選択すると、選択したロット番号を属性にもつ製品のみを表示対象にします。
このレポートは、実物属性セット、製品名、位置情報、利用可能数量、手持ち数量、発注済数量、X(横の位置)、Y(入れ物)、Z(高さ)などを表示します。

製品管理 > 在庫評価レポート

このレポートは、製品の手持ち数量と選択した価格評価日付での価格をリスト表示します。
「倉庫」を選択すると、選択した倉庫のみを表示対象にします。
「通貨」を選択すると、選択した通貨で金額を表示します。
「価格リストバージョン」の選択は必須です。選択した価格リストバージョンに基づいて価格を計算します。
「価格評価日付」の選択は必須です。選択した価格評価日付に基づいて価格を計算します。
価格は手持ち数量を使って計算されます。

製品管理 > 製品管理ルール > 仕入先選択

このレポートは、製品ウィンドウの購買タブで、複数の仕入先がある製品を表示します。
レポート表示のためのパラメーターはありません。
複数の仕入先がある製品を仕入先ごとに表示します。表示項目は、取引先(仕入先)、定価、発注価格、最後の発注価格、最低請求数量、受注バック数量などです。取引先が「現在の仕入先」かどうかとも表示します。